

第3章 持続可能なまちづくり活動へ

【指針⑧～⑩】

活動をしている人がモチベーションを持って活動を続けられるための方策

【指針⑧】仲間との振り返りの場が大事

活動の醍醐味は、活動後に行う仲間と振り返りをする場です。
仲間との交流の中から次へのアイデアや活力が湧いてきます。
初めて参加した仲間も、共に語り合うことでお互いの心を通わせ、活動の活性化につながります。

【指針⑨】全世代において自ら動く人を増やそう

まちづくりの活動には、一人ひとりの人の力が非常に大切です。
誰かのために、地域のためにという想いを行動に移すことができる人、社会課題を自分ごととして考え、主体的に動ける人が増えるための仕掛けが必要です。
また一方で、主体的に動いている人へも、刺激を受けつつ成長できるための仕掛けが必要です。

【指針⑩】他分野の動きを知って、協力できる場所を探そう

蒲郡市では、多くの市民活動団体がまちづくりに関わる活動をしており、まちセンに登録している団体だけでも127団体（R4.7時点）、他にも様々な分野でボランティア団体が活動しています。
各団体の代表などが社会課題について協議する場、つながる場、挑戦する場づくりをし、自分事として行動することが求められています。



みんなの力でまちづくり

“つながりあうまち蒲郡”に向けて
みんなで取り組む10の指針



発行：蒲郡市 がまごおり協働まちづくり会議
蒲郡市 市民生活部 協働まちづくり課
〒443-8601 愛知県蒲郡市旭町17番1号
TEL：0533-66-1179

令和4年10月
がまごおり協働まちづくり会議

第1章 楽しいことからつながり、みんなの力でまちづくりをしよう

【指針①～④】

まちづくりの活動を知ってもらい、想いのある人をサポートしたり、つなげたりする方策

【指針①】まちづくりに触れる機会をもっと身近にしよう

一人でも多くの人にまちづくりの活動を知ってもらい、関心を持ってもらうことが、活動を応援することにつながり、まちづくりに関わる人の輪を広げることに繋がります。

目にした人が“なんかいいね”“なんか共感する”“なんか楽しそう”と思ってもらえる機会や接点をどのように作り、どのように見せていくのが大事な鍵となります。

【指針②】“楽しい”“やってみたい”想いをつなげる仕組みを作ろう

楽しい想いや活動を発信し、やってみたいと思っている人が受信でき、つながるきっかけとなる機会があれば、活動の輪が広がります。

100人会議など柔らかい仕掛けにより、気楽に、緩やかに、つながる機会を作っていくことが大事です。

蒲郡で面白いことをしている人を見える化していくこともつながるきっかけになるのではないのでしょうか。(参考:「沼津人辞典」)

【指針③】地域の困りごと解決に向けて身近な人とのつながりを高めよう

地域でのカフェやマルシェ、雑貨屋さん、ヨガ活動をやっている人など、身近にいる気になる人に声をかけてみよう。

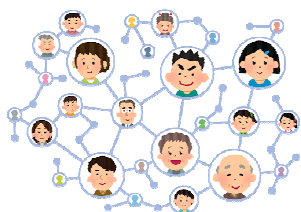
会話の中から、興味のあることに出会ったり、困っていることの解決につながったり、地域との接点ができることもあります。地域の人に気軽に話ができるコミュニティづくりが必要です。

【指針④】がまごおり市民まちづくりセンターを利用しよう

がまごおり市民まちづくりセンター(まちセン)では、まちづくり活動に係る様々な支援を行っています。

まちづくり活動における困りごとを対話により課題整理し、適切な人や組織へつなげる役割や、助成金等の申請サポートなど、まちづくり活動におけるサポーター役を担っています。

まちセンをもっと気軽に誰もが利用でき、さらに相談機能の拡充を図ることがまちづくり活動の推進につながります。



第2章 多様な人の参画に向けて

【指針⑤～⑦】

まちづくり活動に多様な人が参画しやすくするための方策

【指針⑤】若者が好きになるまちにしよう

子どもの頃、学生の頃には、学校の行事やお祭り、地域のイベントなど、まちづくりや地域の人と関わる機会がありますが、大学進学や就職等で地元から離れる、忙しくなるなど環境が変わる中で、まちづくりや地域からも遠ざかってしまう傾向があります。

子どもたちが地域で楽しい体験や成功体験ができ、いずれ成長したときに安心して戻って来られるような地域づくりが必要です。

【指針⑥】女性の気軽な社会参加の入口を増やそう

子育て期は子どもの年齢月によって、まちづくりへの関わり具合などが変わります。気軽に参加できる形態であることや、タイミングを計った社会参加の入口を設定していくなどの工夫が必要です。

【指針⑦】外国籍の市民と地域をつなごう

外国籍の市民は同じ国籍の方々などと協力しながら日本での生活や言葉を学ぶ努力をされ、5年以上と長く蒲郡市に暮らしている方が大半です。

しかしながら、地域において日本人との関わる機会が少ないため、地域社会に溶け込みにくい側面もあります。

